

郷土の芸術文化史を見直し、庄内にゆかりの作家を取り上げて紹介するシリーズの第13回。今回は明治から昭和にかけて郷土で描き続けた、秋野松堂の画業を紹介します。

秋野松堂は明治13(1880)年、西田川郡大山町安良町(現、鶴岡市大山)に生まれました。本名を光廣といい、国学者秋野庸彦の次男として生を受けました。大山小学校を経て、庄内中学校(現、鶴岡南高等学校)へと進んだ秋野松堂は、日本画家の武藤鶴城に画技を習ったといわれています。

明治32(1899)年、中学校を卒業した秋野松堂は早稲田大学文学科へ進学し、上京します。中央では南画家の奥原晴湖とその養女である晴翠に師事し、画業に励みました。しかしながら、加茂の本家を継いでいた弟、定廣が没したことをきっかけにしてか、大学を卒業した明治40(1907)年に大山へと帰郷し、本家の養子となります。加茂の秋野家は庄内で三本の指に数えられる大地主であり、大正3(1914)年に家督を継いだ秋野松堂は郷土の発展のためにさまざまな社会事業に尽力しました。

その家業の一方で、秋野松堂は書画も精力的に続け、自ら南画の会を興し、門人の育成に携わりました。山水のほか花鳥にも優れ、写生に通じた富士図など多彩な作品を遺し、秋野松堂は昭和32(1957)年にこの世を去りました。本展では、高い画技を身につけながらも、中央に出品することなく郷土のために生きた、この孤高の画家の作品約50点を展覧します。

### 会期中のイベント

#### ■ ギャラリー・トーク

2月10日 土、2月24日 土

時間：各回 14:00～15:00

内容：当館学芸員が展覧会をご案内します。

参加料：無料 ※ただし、入場には観覧券が必要です。

申込み：不要 ※ギャラリーへ直接お越しください。

図版：1.「暁富士図」昭和15(1940)年 絹本淡彩 軸装一幅 致道博物館蔵 2.「雪中老松図(円山応挙筆模写)」紙本着色 襖絵三領 個人蔵 3.「溪山漁舟図」自画賛 昭和8(1933)年 紙本墨画 軸装一幅 個人蔵 4.「孔雀図」昭和3(1928)年頃 紙本墨画金泥 軸装一幅 個人蔵 5.「雪松遊雀図」昭和2(1927)年 紙本着色 軸装一幅 個人蔵



※お車でお越しの際は、**荘銀タクト鶴岡**、公園中央駐車場が最寄りです(無料)

## 鶴岡アートフォーラム

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3  
TEL: 0235-29-0260(代表) FAX: 0235-22-6051  
E-mail: info@t-artforum.net URL: http://www.t-artforum.net

### 同時開催

平成29年度 保育園合同卒園展 平成30(2018)年  
みんなあつまれ! 2月17日(土)  
つるおか 2月25日(日)  
こども美術館  
9:00～17:30  
(入場は17:00まで)

主催：鶴岡アートフォーラム、鶴岡市教育委員会  
共催：鶴岡市、鶴岡市保育協議会、鶴岡市民間保育園協議会

2018



1



2



3



4



5